



みどりの力でセンスを育てる！！

～ 自然素材アートワークショップ開催～

と き 11月8日(土) 午後1時～午後4時

と ころ 羽沢二丁目緑地予定地(羽沢2-32周辺:練馬区立こどもの森緑地の予定地)

8日、練馬区立こどもの森緑地予定地(羽沢2丁目)で、開園に向けた自然アートワークショップが開催された。

アウトドア雑誌『BE-PAL』で連載をもつアウトドアプロデューサー長谷部雅一氏が、練馬の自然が残る憩いの森等でユニークな説明を交えながら植物などの観察会を行った。

また、日本大学芸術学部デザイン学科の桑原淳司教授と笠井則幸准教授が、「妖精」をテーマに、観察会で見つけた木の実などの自然素材を使ったアートワークショップを実施。こどもの遊び場を研究している大学教授による、こどもの自由な発想を引き延ばすワークショップが好評だった。

6歳と9歳の子どもと参加した母親は「いつもはどんぐりなど集めて終わりだけど、今日は木の枝や葉っぱ、絵具や毛糸なども使った作品づくりが斬新でした。先生のアドバイス一言で想像を超えた作品ができて、大人も一緒に楽しめました。」と話してくれた。また、子どもたちからは、「糊で葉っぱとどんぐりをくっつけて妖精を作ったのが楽しかった。」と、イベントを満喫している様子だった。



【アートワークショップの様子】



【出来上がった作品】

【当日の様子】

当日は親子連れや近隣の子どもたちなど45人が参加した。前半の自然観察会では木の枝を動物に見立てるなど長谷部氏のユニークな解説に、子どもたちは大いに盛りあがった。

後半の自然素材を使ったワークショップでは、桑原教授の指導のもと観察会で集めた木の実などを思い思いの形につくりあげていった。思いもつかないような作品ができあがり、子どもたちの豊かな発想力に、一緒に訪れていた大人も驚いていた。

参加者からは「開園してからもこのようなイベントを実施してほしい」と次の開催を要望する声があがっていた。

【23区で緑被率第1位の練馬区ならではの取り組み】

23区で緑被率が最も高い練馬区には、風格ある屋敷林や農地がまだ多く残っており、昔ながらの風景を今に伝えている。今あるみどりを守り、増やすことは区の重要課題。練馬のみどりを継承し、将来にわたり保全していくために、練馬区では子どもたちがみどりの中の冒険遊びを通して、身近なみどりの大切さを感じてもらうことを目指し「(仮称)こどもの森」を平成27年春に開園する予定。

「こどもの森体験イベント」は今回が6回目。区はイベントを通して、区民ニーズの把握等に努めてきた。みどりの資源を活かし、子どもたちが自由に遊ぶことができる遊び場作りに自治体が取り組むことは、23区でも珍しい。